



No.111 2010. 9

発行 真言宗豊山派
北田山宝泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真琴

大師堂 落慶

梅雨明け直後の7月19日、強烈な日差しと暑さの中、大師堂落慶法要が厳修されました。工事関係者、お寺様、役員を始め大勢の檀信徒の皆様にご参加いただき旧本堂は新たな歴史を刻み込むことになりました。法要の後宝泉寺役員からの挨拶、工事関係者への感謝状の授与など、みなさんには改修の全貌をご覧ください記念品をお渡しして終了となりました。

参加総勢約80名、お堂の収容能力にちょうど見合った参加者、程良く空調されて使用感も大変いいものとなっていることが実感できました。盆供の受付から本格使用となり、お盆のお参りの方々には麦茶と共に心地良い空間が提供できたと思います。そしてバリアフリーも実現、内外の境界を極力省いたことが使用感をなおいっそう高めています。今後は建立以来180年の大師堂を皆様と共に護持、活用に当たりたいと考えています。法要にご参加のお一人に文章をお願い致しました。

宝泉寺「大師堂」落慶法要に参列して

狭山市 増田正

先日家内と法要に参列しました。旧本堂は約180年前の建造物とのことでその時代をあるいはこの宝泉寺周辺を想像してみると何となくワクワク、ドキドキしてきます。

お墓もあり、自宅が比較的近いこともあって散歩を兼ねて、最近では孫も連れて参拝しています。「屋根を残して下の部分を改修する」とお聞きし、心配して見ておりました。本来なら建て替えの方が・・・と思いつつ、業者の方が上手に筋交いを入れ瓦屋根の高さを一定に保って改修工事がスタートし、通し柱も四隅を順々に土台の上に置いてバランスを取りながら仕上げていました。

入り口横には「新四国奥多摩八十八ヶ所 五十番札所」の石碑もはめ込まれ、まさに新旧の時代を反映した立派な大師堂が出来上がりました。お参りに来られた方の休憩所、その横にはトイレ(もちろんウォシュレット付)、水場など、エアコンも付いており、ご住職のお心遣いがわかります。また大師堂裏には納骨堂も併設され、大日如来座像が安置されています。ガラスの反射などでわかりにくいのですが顔を近づけて拝見するとほほえんでいるように見えます。ぜひお参りしてみてください。

猛暑の中、近隣のご住職も加わり法要が営まれ、関係者にはお礼の感謝状、参列者には麦茶のサービス、帰りには落慶記念品をいただきとても良い思い出となりました。

お墓参りは本堂→六地藏尊→大師堂→大日如来坐像→お墓のコースがお勧めです。帰りに休憩所で一服、何となく「ほっ！」とします。

宝泉寺の石碑などに時代を感じながら孫とのお墓参りも良いものとなりました。

さて大師堂、夜間は施錠しますが基本的に日中は全面開放しておりますのでご自由にお参り下さい。そしてちょっと腰を下ろしてみてください、お薬師様とお大師様がならんでにこやかに微笑んでおられます。なお、お手洗いは原則常時開放、いつでもお使いになれます。

それと八十八ヶ所五十番を示す石碑、元々あったお堂のそばに建てられたものをスライスして壁に埋め込みました。なるべくすっきりした空間にしたかったからです。

大師堂刻字額、すばらしい額に仕上がりました。材料は以前の掲示板の再利用、そう、よく「るり光」を掲示していたものです。そのもとは地元のお檀家で住宅の普請の際、その方の所有の林から切り出した松の木、端材として現場にあったものをお願いしていただいて掲示板に仕立てたものでした。**刻字**は所沢市、東福寺副住職の荒泉崇弘師、「毎日書道展」刻字部門の入選者です。**書**は小僧(しょうそう)、それなりの方にお問い合わせの手もありますが、お恥ずかしくもせめて書は自分の役目と心に言い聞かせて筆を手にししました。

最後に大日堂ガラス、背景が鏡のように映ってしまいます。実は設計施工の段では予想外のことでした。直後から対策を講じましたが思わしい効果は得られず、ガラスは取り外して改修することに致します。その工事はお彼岸後の予定です。

煩惱即菩提 ～るりの会に思うこと～

去る9月10、11日に恒例の「るりの会」(お泊まり会)が開かれました。対象者は宝泉寺境内で行われる夏休みラジオ体操参加の小学生。今年は37人の元気な子供たちが本堂でお経を読み、座禅をし、寝泊まりをしました。

「るりの会」は、現在までかれこれ20回近く行われています。その年によって多少企画に違いはあれ、どの年も、子供たちの良くも悪くも何事にもとらわれない自由さがとても印象的で、彼らが楽しんでいる様子を見るのが大人たちの醍醐味でもあります。

欲望に忠実で自らのことしか考えない子供をさして「餓鬼(ガキ)」と称することがあります。餓鬼とは、食料はおろか、欲しいものは何一つ得ることもできない、一生涯満たされることのない存在で、仏教では生前欲深かった人間が死後餓鬼に生まれ変わると伝えられています。

餓鬼の世界が本当に在るのかはひとまずおいておくとしても、欲深いのが故の苦しみは誰もが経験していることでしょう。

では、その欲は全てなくせば良いのでしょうか。私はそうは考えていません。お釈迦様が「欲は苦しみの源だ」と説かれた仏教は2500年の歴史の中で少しずつ思想の変遷をみせます。そして、弘法大師空海の時代になると、欲は、なくすものではない、ほんのうそくぼだい良いものに転換するものだという発想にいきつきます。これが、表題に挙げた「煩惱即菩提」です。

「煩惱」は欲を含む我々の負の部分です。「菩提」とは悟りのことで、煩惱は、それ自体良くないものであっても、それを向ける方向によっては悟りへ到るエネルギーにもなると説かれるのです。私は、この考え方が大好きです。我慢を強いられることの決して少なくない日常の中で、あるときは自らの欲に従い、こうだと信じるものに突き進む。子供たちの純粋な欲望の力強さにそんなことを教えられている気がします。

※ 流しそうめんの絵は前回るり光で紹介した宮島さんに描いていただきました。



るりの会のこと

須田利保(子供会育成会代表)

今年も、大勢の子供たちが「るりの会」に参加し大変お世話になりました。地域子供会のラジオ体操＝るりの会と子供たちのなかにはあるらしく、初日からたくさ

んの子が参加してくれました。

当日学校から帰り、シャワーを浴び、うかれてでかける我が子の姿を見、嬉しく思いました。夕飯での流しそうめん、中学生のボランティアが参加した恒例の肝試し、低学年の子たちもお兄さんお姉さんと頑張ったようですね。男の子は、大師堂でお大師様が見守るなか就寝し(遅くまで起きていたようですが・・・)普段なかなか体験することがない経験ができ、子供たちにとって夏の良い思い出の一つとなったことでしょう。

これも住職さんをはじめ、副住職さんお手伝いしてくださった、ボランティアの皆様ののおかげだと感謝しております。ありがとうございました。

お勤めの会始めます

10月より毎月2回、宝泉寺大師堂にて朝のお勤めを皆さんと一緒にやりたいと思います。日時は、お薬師様とお大師様の縁日である8日と21日の朝8時より。30分ほどの読経のあと、集まった皆様でお茶を一服して解散となります。参加資格は特にございません。経本はこちらで用意致しますのでどなたでもお気軽にご参加ください。(お持ちの方は数珠をご用意ください)。

NPO 法人
颯の扉 バザー
9月23日(木)
10時～3時半
宝泉寺境内

多くの方からよせられた善意の品々をお持ちしておじゃま致しますので、よろしくお願い致します。

今どきの

若い人とはといえば、引きこもり、ニートなどネガティブな話題が多い、しかしこんな若者も。某証券会社所沢支店からやってくる若い女子社員、新卒の時から3年数ヶ月やってきます。預けるものもないので玄関先で帰るのが常、そしていつも本堂と八幡様にお参りをしていきます。なによりも驚きは暑くても寒くてもここまでの足は自転車なのです。この夏も猛暑の中スーツ姿でいつもと変わらない笑顔で何度か。このお寺が気に入って仕事や自分のことをお祈りして帰る、と本人の弁。

編集後記

- 野生のリンドウの蕾がふくらんでいる。植えたわけでもないのに、立木が伐採されて日が当たると地中での眠りから覚めるようだ。雑木林に足を踏み入れてみて下さい。
- お泊まり会、今年5月、法事でお寺に来た女性、「和尚さん、今もこれ使ってるんです」

とあの時の子ども用念珠。こんなこともエネルギー源だ。

- 失われた10年と言われて久しいが今や20年だ。どろどろした争いの選挙後新しい政権が出来てもどうもワクワク感がない。
 - 大事にしていた庭木の松が枯れてしまった、暑さと乾きを物語る。
- Sep.17.2010(琴)